



多くのスポーツ選手や女優などの有名人が、体外受精で子供を授かっています。テレビや雑誌を通して、皆さんは体外受精という言葉は耳にしたことがあるでしょう。体外受精で生まれる子供の数は年々増えており、2012年に体外受精で生まれた子は約3万8千人です。総出生数は103万人なので、体外受精による子供の割合は約27人に1人となりました。小学校1学級のうち、1人は体外受精による子供という計算です。今回は体外受精について考えてみましょう。

体外受精



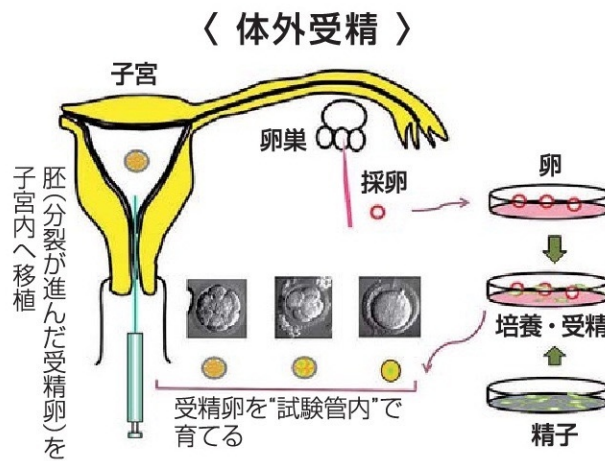
産婦人科医

今井篤志氏

タイミングよく飛び出した新鮮な卵と精子が出合い、合体します。これを受精といいます。受精卵(胚)は自力では移動することができず、卵管の運動によって、1週間程度で子宮の中に運ばれます。受精卵はこの1週間の間に、発育しながら胎児の基になります。そして、子宮内にどっぴりと着床をします。これを着床と言います。受精卵が着床した時点で妊娠したといえます(2012年12月24日付本欄参照)。

体外受精とはその名の通り、体の外で精子と卵子の出

出生数の27人に1人



合いの場を設けて受精させます。そして、普通は卵管内で行われる受精卵の発育を「試験管内」で肩代わりし、順調に受精・分割した受精卵を子宮内に移植する方法です(図)。

分けられます。①ホルモン剤や排卵誘発剤で排卵を促進します②超音波で卵胞を見ながら、細長い採卵針で卵胞を穿刺して卵を採取します③精液を採取してもらいます。精液は洗浄し質のいい元気な精子を選びます④培養容器内で卵子と精子を混ぜ、受精するのを待ちます。3〜12時間後には受精卵になります⑤数日後に、正常に発育した受精卵を子宮内へ移植します。

体外受精は誰でも受けられるというわけではなく、他の手段では妊娠しないカップルが対象で

生殖関連の技術開発進歩

す。受精卵の通り道である卵管の機能が障害されている、高齢で卵子の老化が進み妊娠の可能性が低い、精子との相性が悪く精子を受け付けけないなどの原因が女性側にある場合です。また男性側の要因として、精液中に精子がいなかったり、少ない(無精子症、乏精子症)、あるいは精子がいたとしても運動能力が低く子宮や卵管を泳いでいけない(精子無力症)、性交渉ができない場合などです。

卵を顕微鏡で見ながら針を刺し、卵の中に精子を注入する操作を顕微授精と言います。理論的には精子が一つでもあれば受精が可能で、無精子症や乏精子症のケースに福音をもたらしています。

生殖に関連する新たな発見や技術の開発は日進月歩しています。子供に恵まれないカップルの方は、悩む前にご相談にいらしてください。

(松波総合病院腫瘍内分泌センター長、羽島郡笠松町田代)